

世界的に有名なアーティスト達の FOH ミキサーとしての幅広い見識と経験を持つ Meyer Sound 社 Buford Jones 氏



アジア各地を回り、実践的なセミナー「Mixing Workshop」を行っており、10月には新しいオンライン講義をスタート。

「ライブ音楽と教育のスペシャリスト」への転身に伴い、教育へより強い焦点を合わせており、約40年間におよぶミキシングエンジニアとしての経験を通して学んだことを共有する事にエネルギーを注いでいます。



Buford Jones 氏に今日のミキシングエンジニア達にとっての課題や業界の力学、教育者としての日々、新しく始まるオンライン講義などについてお話を伺いました。

Q:ミキシングエンジニアの仕事の状況は、1970年代や80年代とは全く違ってきているとよく言われますが、お考えをお聞かせください。

Buford: ライブツアーのシーンは多くの点で変化しました。ある瞬間において、ライブサウンドは全てです。エンジニアにとって、素晴らしい仕事は、自分では気づかないうちに注目されています。良い仕事ができているなら、バンドや観客は素晴らしい時間を過ごしているし、大規模、小規模にかかわらず、どんなコンサートにあなたが必要とされるかわかりません。

Q:あなたがこの世界に入った時と比較して、確かにライブサウンドシーンは進化しましたが、変わらないものを一つ挙げるとしたら？

Buford: 原則は同じです。音楽を観客に届けるためのエンジニアの責任というものは、強調してもしきれない一点です。コンサートにおいては、アーティストは作品を売り込んでいるのです。観客は聞こえた音楽を気に入れば、CDを買うか、そのアーティストのコンサートを再び見に行きます。エンジニアの仕事は、アーティスト達が作品をより良いものにする手助けをすることです。テクニカルなスキルも重要ですが、全ては音楽次第です。これは絶対的に変わりません。

Q: 今日のミックスエンジニア達が直面する、最大の課題は何でしょうか？

Buford: ライブサウンドの環境において一貫した仕事を達成するという事です。それは、困難を極め、変化に満ちていますが。一貫したサウンドの重要性は、ライブサウンドの数多くの側面に当てはまります。ミックスエンジニアばかりでなく、セットアップを行う側にも、同様に責任が生じます。Meyer Soundの教育プログラムにおいて、この基礎的な部分は強調されており、私が担当する「Mixing Workshop」もそうですし、Steve Bush、Mauricio Ramirezなど他の講師たちが担当する「システムデザインと最適化のトレーニング」などもあります。

Q: 業界において、ミックスエンジニアの仕事に最も影響を与えた発展といえは？

Buford: 間違いなく、ツールの急激な発達です。新しいテクノロジーは、エンジニアに柔軟性と数多くのオプションを与えてくれましたが、デジタルコンソールへの移行は新たな課題をも生み出しました。幸い、業界は確固とした信頼のおける状態に達してはいるのですが、一貫性を保つためには、変換しても再度元に戻れるような、バックアップシステムを持つことの大切さを強調しています。

Q: あなたの「Mixing Workshop」の講義は進化し続けますね。

Buford: 忙しいスケジュールを割いて参加してくれる業界のプロや生徒達と話を共有できて、本当に元気をもらっています。より一貫性のある素晴らしいミキシングを行うため、進んで学ぼうとしてくれる生徒たちの助けになれることを楽しみにしています。今回テクニカルな講義の一部をオンラインで発信しますが、より多くの人々が学んだテクニックをすぐに業務に生かすことができるよう願っています。

Q: 「Auxでのサブウーファー」はオンライン講義(webinar)における最初のトピックのひとつですが。

Buford: 「Mixing Workshop」で話すテクニカルなトピックは全て、自分自身がミキシングをする際に使用している原則です。最もよく尋ねられる質問のひとつが、低域の明瞭度達成についてですので、最初のオンライン講義で、このトピックに焦点を当てたのですが、どうやったら左右のシステムを使用して、ローエンドのミキシングを追加の機器なしで最適化することができるのかを皆さんにお教えします。また、ミキシング処理を開始する前に、正確な音源で始めるということについてもお話しします。

Q: ツアーに参加しなくなって寂しいですか？

Buford: ライブサウンドエンジニアとしての37年間は、1年に8か月から10か月間は、ツアーで世界を回っていました。全てのツアーでの仕事を楽しんでいました。しかし今は、家族と一緒にナッシュビルで落ち着いていられることも、非常に嬉しく思っています。今でも「Mixing Workshop」の講義で各地を回ってはいます。同時にオンラインでも講義を行っています。自分のキャリアを振り返ってみて、

明らかにこれこそが、私が今すべきことなのだと感じています。業界で進歩していくために役立つアイデアやコンセプトを、次世代のエンジニア達と分かちあい、彼らに還元していくこと、がです。

Q: 今もコンサートには行きますか？

Buford: ほとんどの音楽ジャンルを楽しんでいますが、根底にはロックが流れています。お気に入りの挙げるなら、Joe Bonamassa と Robert Randolph です。Meyer Sound 社で仕事をしていると、素晴らしい音楽を聴けるコンサートや音楽祭、ラジオやテレビ局などにおいて、ライブサウンドのシーンに深くかかわることができ、才能にあふれるエンジニア達の活躍を耳にすることもできます。

(2011年9月)